

令和元年度保健体育科授業充実事業

中学校保健体育科授業実践事例

球技〈バレーボール〉



群馬県教育委員会
(健康体育課)

1 保健体育科授業充実事業の概要

授業充実事業とは

中学校保健体育科授業の充実を図るため、授業実践上の課題を明らかにし、課題解決のための方策等を具体化することで、教師の指導力の向上に資する。

保健体育科授業の充実

教師の指導力の向上

研究成果のまとめ

中学校保健体育科授業の充実を図るための資料を作成

公開授業の実施

- 委員が所属する学校を、「授業充実協力校」として指定
- 研究成果を県下に広めるため、授業を公開

授業研究会

- 公開授業をもとに、授業充実のための方策を研究協議
- 指導・講評
- 情報提供

授業充実検討委員会の開催

授業実践上の課題を改善するための指導の在り方について研究

2 実践事例

期 日：令和元年10月16日（水）
会 場：前橋市立宮城中学校
単 元：体育分野 E 球技「ネット型」
バレーボール
学 年：1年
授業者：川村 尚也 教諭 ・ 都丸 優衣 教諭

<参考資料>

- ①学習指導案
- ②学習カード等

令和元年度授業協力校及び授業充実推進員
前橋市立宮城中学校 川村 尚也 教諭

令和元年度授業充実検討委員
大川 紀章（中部教育事務所）
茂木 栄一（前橋市教育委員会）
小山 靖弘（健康体育課）

[参考資料]

- ・ 中学校学習指導要領解説保健体育編【文部科学省】（平成20年9月）
- ・ 中学校学習指導要領解説保健体育編【文部科学省】（平成29年7月）
- ・ はばたく群馬の指導プラン【群馬県教育委員会】（平成24年3月）
- ・ はばたく群馬の指導プラン実践の手引き
【群馬県教育委員会】（平成26年3月）
- ・ はばたく群馬の指導プランⅡ【群馬県教育委員会】（令和元年8月）
- ・ 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 保健体育）
【国立教育政策研究所 教育課程研究センター】（平成23年7月）
- ・ 学習評価の在り方ハンドブック（小・中学校偏）
【国立教育政策研究所 教育課程研究センター】（令和元年6月）

【授業の視点】

チームごとに作戦を立てる場面において、ラリーが続いている映像を見て、ボールを持たないときの動きに着目させて話し合わせたことは、ラリーを長く続けるために有効であったか。

I 単元名 球技 「ネット型」 バレーボール

II 単元・題材の考察

1 教材観

(1) 一般的特性

- ・ネットをはさんで相対するチームが、サービス、レシーブ、トス、アタック、ブロックなどの技術を用い、3回以内に相手コートに返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うスポーツである。
- ・ネットをはさんで行うことによって、混戦したボールの奪い合いがなく相手に邪魔されない。そのため、自分のチームに適した作戦を組み立て、実践しやすい。
- ・プレーやルールも理解しやすく、チーム全員がボールに触れる機会がある。ラリーを続けることができたときには、得失点に関係なく全員で楽しさを味わうことができる。そのため、個々のボールのコントロール技能が要求される競技でもある。また、ボールをつないで得点をするためには、仲間と協力するチームワークも求められる。
- ・スピードと変化のあるプレーにより、敏捷性や巧緻性、筋持久力などが高まる。また、様々な状況に応じたボール操作を瞬時に判断して行うので、冷静さと集中力が身に付く。仲間と連携したプレーにより得点を競い合うため、協調性も身に付く。

(2) 生徒から見た特性

- ・バレーボールは、実業団や日本代表の国際試合など、テレビ放映も頻繁に行われ、生徒にとって認知度も高い。
- ・ボールを保持することができないので、初期の段階ではボールをうまくコントロールすることができずラリーにならない傾向にある。そのため、ゲームが盛り上がりず楽しさを感じられないことがある。
- ・ネットの高さが2mを超えるため、身長の高い生徒はアタックを打つのが難しい。
- ・レシーブ、トス、アタック、ブロックなど、役割分担がはっきりしているため、身長の高低に関係なくゲームに参加し、力を発揮することができる。
- ・仲間と協力してラリーを続けることができたときやアタックを打つことができたときには生徒一人一人が楽しさや満足感を得ることができる。

2 生徒観

1年A・B組(男子30名、女子23名、計53名)に本単元に関わるアンケートをしたところ、結果は以下の通りである。

[知識及び技能]

①バレーボールの授業で楽しみにしていることは何か

- ・協力して楽しむこと ・トスをすること ・アタックを打つこと ・試合 等

②バレーボールの授業で不安なことは何か

- ・速いボールがとれない
 - ・ケンカをしてしまう
 - ・仲間の足を引っ張りそう
 - ・けが
 - ・友達の期待に応えられない
 - ・ルールが分からない
 - ・ボールがうまくコントロールできない
- 等

以上の結果から、生徒は協力したり、技能を向上させたりすることに楽しみを求めていることが分かる。また、バレーボールは、自分のボールのコントロールミスが直接相手の点数になってしまうため、ミスをしたくないと回答する生徒が多く見られた。小学校では、簡易ルールでのソフトバレーボールを経験しているが、バレーボールの特性やルール、技術や戦術の名称等は理解が浅い。また、体づくり運動の授業でボールを投げる運動をしたが、ボールを上手に操作する基本的な技能は高いとはいえない。

[思考力、判断力、表現力等]

③チームで話し合いをするときに気をつけていることは何か

- ・仲間の気持ちを傷つけないようにしている
 - ・友達の意見をしっかり聞く
 - ・みんなの意見を取り入れる
 - ・相手の意見を尊重すること
 - ・自分と違う考えを受け入れる
- 等

学級活動や他の授業の様子から、話し合い活動には協力して参加している様子が伺える。しかしながら、③の結果から、友達の話を聞くときのマナーや心構えは身に付いているが、自分が考えたことを他者に伝えることに積極性が見られなかった。

[学びに向かう力、人間性等]

④保健体育の授業は好きか

好き 30人 まあまあ 18人 あまり好きではない 4人 嫌い 1人

⑤体育の授業でどんなときに楽しいと感じるか

- ・目標を達成できたとき
 - ・新しいことを習うとき
 - ・みんなで協力して試合をするとき
 - ・技能が向上したとき
 - ・正々堂々と勝負するとき
- 等

⑥バレーボールは好きか

好き 18人 まあまあ 25人 あまり好きではない 9人 嫌い 1人

④、⑥から、多くの生徒が保健体育の授業を楽しく感じ、バレーボールも好きであると答えている。しかし、好きではないと答えている生徒も少なくない。楽しさを感じる要因として、技能の向上や目標の達成、仲間との協力が多く挙げられた。

3 教材の系統

小	5年	○ソフトバレーボールやプレルボールを基にした簡易化されたゲーム
	6年	・ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをする。
中	1年 2年	○バレーボール ・ラリーを続けることを重視し、ボール操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をする。
	3年	○バレーボール ・ポジションの役割に応じたボール操作によって、仲間と連携した「拾う・つなぐ・打つ」の流れで攻撃を組み立てるなど、空いた場所をめぐる攻防する。

III 単元の目標

知識及び技能	・バレーボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力を理解させるとともに、ボールの操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所の攻防をすることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けた運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	・バレーボールの学習に積極的に取り組むとともに、作戦などの話合いに参加し貢献したり、フェアプレイを守ったりして、仲間と助け合いながら運動できるようにする。

IV 評価規準

知識・技能	・バレーボールの特性や成り立ちについて言ったり、書き出したりしている。 ・技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。 ・基本的なボール操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防ができる。
思考・判断・表現	・自己やチームの課題に気付き、その解決に向け運動の取り組み方を工夫している。 ・自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	・健康、安全に気を配っている。 ・バレーボールの学習に積極的に取り組もうとしている。 ・フェアプレイを守り、作戦などの話合いに参加しようとしている。

V 指導方針

「つかむ」過程

- ゲームで安定したボールコントロールができるように、対人パスの練習を毎時間行うようにする。
- 基礎練習では、落ちてくるボールの落下点に入ること、ボールの中心を捉えること、正しく構えることを習得するために、ピンポン玉を使用する。
- 意欲を高めたり運動量を確保したりするために、単元最初の段階から簡易ゲームを行っていく。
- 単元前半は、一人一人がボールに触れる回数を増やすため、2対2や3対3の人数で、バドミントンコートを使用してゲームを行うなど、プレーヤーの人数やコートの広さを工夫する。
- 空いた場所を意識した動きを身に付けることができるように、ボンバーゲーム等の簡易ゲームを取り入れる。

「追求する」過程

- 生徒一人一人が目標を持って授業に取り組めるようにするために、めあてを提示するとともに、チームの課題や練習方法、作戦などを全体やチームで確認し、話し合う時間を設ける。
- 学習の出来映えを確認したり次時への課題を持たせたりするために、めあてに沿った振り返りを行う。
- チーム内で意見交換しながら課題や作戦を考え、チーム内で共通理解させるために、それぞれのチームに作戦ボードを活用させる。
- 初歩段階では、サーブを行うことが難しく、ラリーが続きにくい。そのためゲームでは、ラリーが続く楽しさを味わわせるために、サーブを簡易化したり、返球回数等のルールを工夫したりする。

「まとめる」過程

- 最終的には、6人対6人のバレーボール大会を行うことができるようにするため、毎時行う簡易ゲームは、プレーヤーの人数を徐々に増やしていったり、ルールの難易度を徐々に高めたりしながら、スモールステップで行う。

VI 指導計画（本時は、全11時間中の5時間目）

時間	学習活動	支援及び留意点	評価項目(評価方法)
①	○オリエンテーション ・特性や成り立ち、技術 ・学習の進め方・見通し ○ボンバーゲーム (2対2)	・ボールを使用しないボンバーゲームを行うことで、苦手な生徒も楽しんで活動できるようにする。 ・かけ声をかけながら、ボールキャッチ、スロー、パスがスムーズにできるようにさせる。	・バレーボールの基本用語や技術、ルール等の特性を理解することができる。【知・技】(観察・学習カード) ・進んで活動している。【主】(観察・学習カード)
②	○オーバーハンドパス ○アンダーハンドパス ○ボールキャッチゲーム (2対2)	・声の出し方やボールを受ける前の構え方、体の動かし方等の基本技能ポイントを理解させる。 ・ボールキャッチゲームを通して、ボールの落下点に移動できるようにさせる。	・基本のパスの動きを理解している。【知・技】(観察・学習カード)
③	○基本練習 ○円陣パス ○ボールキャッチゲーム (3対3)	・円陣パスを通して、ボールの動きに合わせて体の向きを正対させる。 ・ボールキャッチゲームを通して、構え方やボールを捉える位置への移動の仕方が大切であることに気付かせるようにする。	・味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。【知・技】(観察)
④	○基本練習 ○簡易ゲーム(3対3) ・キャッチなし ・バウンドあり ○ゲーム前に作戦、後に振り返りの話し合いをする。	・話し合いを通して、チームが得点をとるために、チームで何が大切なのか、考えさせる。 ・個人のボール操作の技能だけでなく、ボールを持たないときの動きも大切であることに気付かせる。	・つまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。【思・判・表】(観察)
⑤ (本時)	○基本練習 ○簡易ゲーム(3対3) ・キャッチなし ・バウンドあり	・ラリーが続いている映像から、ボールを操作しないときの動きに着目させ、ラリーが続くために必要なポイントに気づかせる。	・ボールを持たないときのよい動き方に気づき、仲間に伝えることができる。【思・判・表】(観察・ホワイトボード)
⑥	○基本練習 ○簡易ゲーム(3対3) ・キャッチなし ・バウンドあり	・自コートに空いた場所を作らないよう定位置に戻ったり、攻撃に備える構えを取ったりすることをおさえ、どのようにメンバーが動けば、相手コートに返球できるか考えさせる。	・相手の打球に備えた準備姿勢をとることができる。【知・技】(観察)
⑦	○基本練習 ○三段攻撃の練習 ○簡易ゲーム(3対3) ・1本目キャッチあり ・ワンバウンドのみあり	・三段攻撃を理解させる。アタックや返球する場所を工夫させる。 ・自分に適した役割を考えさせ、自分ができるように動けば点が取れるのか考えさせる。	・相手側のコートの空いた場所にボールを返すことができる。【知・技】(観察)
⑧	○基本練習 ○三段攻撃の練習 ○ワンバウンドゲーム (6対6) ・2本目のみキャッチあり ○ゲーム前に目標やフォーメーション、作戦を考えさせる。	・前時までの活動を振り返ることで、ボールを操作しないときの動きや空いた空間を攻撃するよう意識させる。 ・チームの課題を見付けさせる。 ・ゲーム後に、失点するときのパターンを振り返ることで、課題に気付けるようにする。	・仲間と教え合いながら、話し合いやゲームをすることができる。【思・判・表】(観察・ホワイトボード) ・狙った場所にボールをコントロールできる。【知・技】(観察)
⑨	○基本練習 ○課題別チーム練習 ○ワンバウンドゲーム (6対6) ・2本目のみキャッチあり ・ノーバウンドで得点した場合2点	・チームの課題を解決する練習や作戦を考えさせる。 ・作戦が実践で生かしているチームには、勝ち負けにかかわらず、称賛する。	・チームの課題を解決するため、考えたことを伝え合っている。【思・判・表】(観察) ・積極的に練習や試合に取り組んでいる。【主】(観察)
⑩ ⑪	○バレーボール大会 ・ワンバウンドゲーム ・三段攻撃で得点した場合2点 ・ノーバウンドで得点した場合3点 ・ローテーションあり	・作戦やポジションを意識してゲームに取り組ませる。 ・良い指示や掛け声をしているチームは称賛する。	・仲間や相手に合わせて連携した動きができる。【知・技】(観察) ・周囲に声をかけて、積極的に練習や試合に取り組んでいる。【主】(観察)

ねらい1【つかむ】
バレーボールの基本的な技能を身に付け、今持っている力でゲームを楽しむ。

ねらい2【追求する】
自己やチームの課題を持ち、練習を工夫しながら、いろいろな相手と対戦して楽しむ。

ねらい3【まとめる】
高まった技能を生かして、相手に応じた作戦を立てて、ゲームを楽しむ。

VII 本時の学習（本時は5／11）

1 ねらい

ボールを持たないときの動きに着目させた話し合い活動を通して、自己の課題やチームの課題を見付け、それを仲間に伝えることができる。

2 準備・資料

ボール 木の板 マーカー ピンポン玉 学習カード ホワイトボード 作戦ボード 鉛筆 ネット
 ボール タブレット プロジェクター スクリーン アンブ

3 本時の展開

学習活動	時間	指導上の留意点・支援	※評価項目
<p>1 準備運動・アップを行う。</p> <p>(1)チームごとに体操をする。</p> <p>(2)基本練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木の板を使ったアンダーハンドパス ・マーカーを使ったオーバーハンドパス ・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス ・対人パス 	13	<ul style="list-style-type: none"> ○チームごとに体操、基本練習をする。 ○指や手首はけがをしやすいため、よく伸ばすように助言する。 ○アンダーハンドパスでは落下点と面を意識できるように木の板とピンポン玉を使って練習する。 ○オーバーハンドパスでは落下点と三角形を意識できるようにマーカーとピンポン玉を使って練習する。 ○対人パスではボールを捉える位置への移動と構えができるように声をかけながらパスをするように促す。(T1、T2) 	
<p>2 めあてを確認し、本時の見通しを持つ。</p> <p>(1)あいさつ</p> <p>(2)本時の学習活動をつかむ。</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> ○姿勢を正して挨拶をさせるとともに、健康観察を行う。(T1) ○本時の流れを説明することで、学習の見通しを持たせる。(T1) 	
<p>めあて：ボールを操作しないときの動き方を工夫して、ラリーを続ける方法を見付けよう！</p>			
<p>3 ラリーが続いている映像から、パスを上手くつなぐ動きを分析する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落下点に入るのが速い。 ・返球した後、元の場所に戻っているね。 ・相手がボールを返す瞬間には動き始めているね。 ・視線はボールじゃなくて、敵を見ているなあ。 </div>	8	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のめあてを受け、個人の目標を考えさせる。 ○前時の学習から本時のめあてにつなげることができるよう、発問しながら生徒の必要感を引き出す。(T1) ○映像を見て、ボールを持たないときの動きに着目させ、どのように動けばボールに触れることができるか考えさせたり、ボールを持たないときの動きに着目させ、構えや視線、動き出すタイミングに気付かせる。(T1、T2) ○味方がボールを操作するとき、ボールを持たない人の動きに着目させ、フォローやカバーの意識も持てるようにする。 	
<p>4 3対3のゲームの作戦を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まではボールが返ってきてから動いていたけど、相手をよく見て、返ってくる前に動こう。 ・定位置を決めて、返球したらそこへ戻って、スペースをなくそう。 ・スペースをなくせるようなフォーメーションにしてみよう。 </div>	7	<ul style="list-style-type: none"> ○作戦ボードを活用し、ポジションや動き方を共通理解する。 ○映像を見た感想から、どうすればラリーが続くのかを考えさせ、自己の課題やチームの課題を明確にさせる。(T1、T2) 	<div style="border: 3px double black; padding: 5px;"> <p>※自己やチームの課題を見付け、動き方を考えたり、仲間に伝えたりすることができる。【思・判・表】（観察・ホワイトボード）</p> </div>

① 月 日 ()	② 月 日 ()	③ 月 日 ()	④ 月 日 ()	⑤ 月 日 ()	⑥ 月 日 ()
本時のめあて ○バレーボールの特性を理解しよう	本時のめあて ○アンダーハンドパスとオーバーハンドパスのコツをつかもう	本時のめあて ○味方が操作しやすいようにボールをつなごう	本時のめあて ○つまずき事例を参考に、チームが得点を取るために大切なことは何か見付けよう	本時のめあて ○ボールを持たない時の動き方を工夫して、ラリーを続ける方法を見付けよう	本時のめあて ○攻撃に備える構えや動き方理解し、ラリーを続けよう
目標	目標	目標	目標	目標	目標
評価 (A・B・C) ・意欲的に取り組めた () ・自分やチームの課題を見付けることができた () ・友達と意見交流できた () ・目標を達成できた ()	評価 (A・B・C) ・意欲的に取り組めた () ・自分やチームの課題を見付けることができた () ・友達と意見交流できた () ・目標を達成できた ()	評価 (A・B・C) ・意欲的に取り組めた () ・自分やチームの課題を見付けることができた () ・友達と意見交流できた () ・目標を達成できた ()	評価 (A・B・C) ・意欲的に取り組めた () ・自分やチームの課題を見付けることができた () ・友達と意見交流できた () ・目標を達成できた ()	評価 (A・B・C) ・意欲的に取り組めた () ・自分やチームの課題を見付けることができた () ・友達と意見交流できた () ・目標を達成できた ()	評価 (A・B・C) ・意欲的に取り組めた () ・自分やチームの課題を見付けることができた () ・友達と意見交流できた () ・目標を達成できた ()
反省・感想	反省・感想	反省・感想	反省・感想	反省・感想	反省・感想
先生から	先生から	先生から	先生から	先生から	先生から

⑦ 月 日 ()	⑧ 月 日 ()	⑨ 月 日 ()	⑩ 月 日 ()	⑪ 月 日 ()	
本時のめあて ○3段攻撃をしてみよう	本時のめあて ○3段攻撃をするために改善すべき、自分やチームの課題を見付けよう	本時のめあて ○チームの課題から適切な練習を選び、チーム力を高めよう	本時のめあて ○ゲームを楽しもう	本時のめあて ○ゲームを楽しもう	
目標	目標	目標	目標	目標	
評価 (A・B・C) ・意欲的に取り組めた () ・自分やチームの課題を見付けることができた () ・友達と意見交流できた () ・目標を達成できた ()	評価 (A・B・C) ・意欲的に取り組めた () ・自分やチームの課題を見付けることができた () ・友達と意見交流できた () ・目標を達成できた ()	評価 (A・B・C) ・意欲的に取り組めた () ・自分やチームの課題を見付けることができた () ・友達と意見交流できた () ・目標を達成できた ()	評価 (A・B・C) ・意欲的に取り組めた () ・自分やチームの課題を見付けることができた () ・友達と意見交流できた () ・目標を達成できた ()	評価 (A・B・C) ・意欲的に取り組めた () ・自分やチームの課題を見付けることができた () ・友達と意見交流できた () ・目標を達成できた ()	
反省・感想	反省・感想	反省・感想	反省・感想	反省・感想	学習を終えて
先生から	先生から	先生から	先生から	先生から	

VIII 授業の様子

①木の板を使ったアンダーハンドパス練習、マーカーを使ったオーバーハンドパス練習



落下点と面を意識!



落下点と三角形
を意識!

②本時のめあての確認

ボールを操作しないときの動きを
工夫しよう!



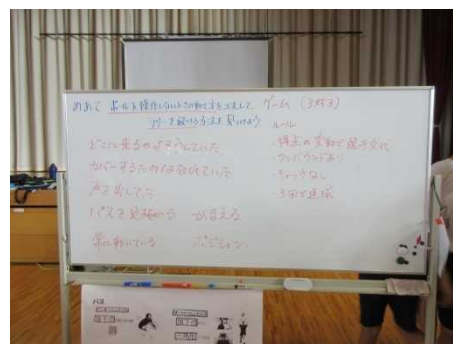
ボールを操作しないときの
動きって何だろう?

③映像を見て、パスをつなぐ動きの分析



映像の選手達は、なぜ、ラリーが続いているのかな?

- ・ボールを見極めてる!
- ・常に動いてる!



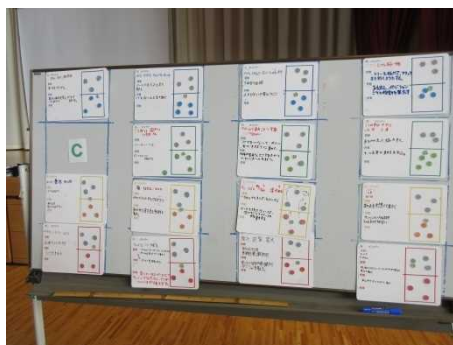
④チームごとに作戦を立てる



味方がボールを持っているときはどう動けばラリーが続くかな?



空きスペースを埋める動きを
していこう!



⑤ゲーム



ボールの見極めを早く
しよう！

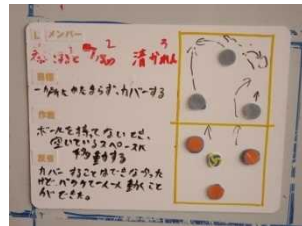
スペースに素早く移動
しよう！



⑥チームごとに振り返り



ラリーは続いたかな？
目標の動きはできた？



次は、もっとスペースを意識
して動こう！

⑦まとめ



ラリーを続けるために、どのようなことに
気を付けたかな？

カバーを考えながら動きました。上手にで
きなかつたので、次の試合でもっと上手く
なりたいです！

まとめ

1 「単元づくり」「授業づくり」にあたって（単元構想・授業構想）

「バレーボール」の単元・授業を構想するにあたり、次の3項目を重点とした。

(1) オーバーハンドパス、アンダーハンドパスのポイントを理解し、ボールを操作できること。

【知識及び技能】

(2) 映像資料をもとにして、自己やチームの課題に気づき、他者に伝えること。

【思考力、判断力、表現力等】

(3) チームの一員として話合いやゲームに参加し、積極的にバレーボールに取り組むこと。

【学びに向かう力、人間性等】

(1)については、事前アンケートから、自分のボールコントロールミスが直接相手の点数になってしまうため、ミスをしたくないと回答する生徒が多く、チーム内で技能の上位生徒にプレーを任せてしまう傾向にあるのではないかと推測した。このことから、全員が正しいパスのポイントを把握しボール操作を身に付けることで、ミスを恐れることなく、積極的に2つのパスを使用しながらゲームに参加することができる考えた。そこで、本単元では、ボール遊び感覚の中から技能を習得できるような教具を工夫し、毎時間授業の導入で基本練習を行った。痛みや怖さを和らげ、ボールの中心を捉えることがわかりやすいように、ピンポン玉を使用することとした。オーバーハンドパスでは、マーカー（お椀状になっているコーナープレート）を利用して、おでこの前で落下してくるピンポン球をキャッチさせることで、手のひらの構え方やボールを捉える位置を意識できるようにした。また、アンダーハンドパスでは、木の板を利用して、落下してくるピンポン玉を面で捉えることを意識できるようにした。

(2)については、アンケートや今までの授業の様子から、話合いの場面では仲間の意見を尊重したり協力したりする姿勢は見られるが、自分の意見を他者に伝えることには積極的ではない傾向にあった。また、技能の上位生徒の考えがチームの考えになりがちで、技能の下位生徒の意見が話合いに生かされていない傾向も見られた。このことから、映像資料を提示し、構えや目線、動き出すタイミング等の具体的な視点を与えて見させることで、誰もが自己やチームの課題に気が付くことができるようになる。そして、授業の中に話合いの場面をしっかりと設けることで、一人一人が気付いたことを他者に伝えることができるようになる考えた。

(3)については、技能向上によるチームでの活躍やプレーが上手くいったときの達成感などが生徒の運動に対する積極性に関係する考えた。このことから、基本的な技能の習得状況を加味したチームの編成とチーム内での個々の役割の明確化、また、互いに声を掛け合うことによる授業の雰囲気づくりに重点を置き、毎時間ゲーム行うことで自己有用感、自己肯定感が持てるように意識した。

2 授業研究会の協議より（○：良かった点 ●：課題及び改善点）

(1) 教師の生徒への関わり方

○2人の教師で分担してチームを回り、「前回と比べてどこがうまくいき、なぜよかったのか」を質問して、生徒の考えを引き出していた。

- T1、T2が各グループを巡回しており、個に応じた支援（アドバイスや褒め等）が充実していた。
- T1、T2がアドバイスをする際、アドバイスする視点のズレがあった。同一の視点で技能ポイントの声かけを行いたい。

(2) めあての提示、課題設定、見通しの持たせ方

- 映像を見せる場面で、1回目は普通に見せ、2回目は着目点（視点）を伝えて見せていたので生徒が課題に気付きやすかった。
- 前時の課題と映像を比較させ、本時のめあてにつなげられた。
- 本時のめあてを達成するには、作戦の幅が広すぎている。
- 「ボールを持たないときの動き」に視点をもっと絞って活動させるとよい。
- ボールを持たない人の動きが、ラリーを続ける上で何が重要になるのか共通理解させたい。

(3) 教材等の工夫

- ドリル練習、教具が工夫されていた。（マーカーや木の板でピンポン球を受ける）
- 各班の目標・作戦・反省を書かせる作戦ボードの活用が有効であり（やること等が明確で、班のことが全体で共有できる）、ホワイトボードに貼ることで、全体で共有できていた。
- 3人グループで行うことにより、話し合いで意見が出やすく、練習やゲームでボールに触れる回数が多くなっていた。
- 教材が充実していたが、書くもの（ホワイトボード、学習カード等）が多く、生徒が大変そうであった。
- 映像の中でポイントとなる部分に○を付けることで、もう少し見やすくなるとうい。
- 確認の時間を設定し、周りで観察する人を増やしたり、映像を増やしたりし、自分たちの動きが客観的に見られるようにするとよい。
- 「ワンバウンドあり」でゲームを行うと、ボールを持たないときの動き（走り回る、予測する）を意識しなくてもラリーを続けることができってしまうので、今回はノーバウンドでやってもよかったのではないかと。

(4) 発問、板書

- 「なんで？」と発問することにより、答えを引き出したり、生徒に気付かせたりし、対話的で深い学びになっていた。
- 映像を見て気付いたことを生徒から引き出していた。
- 一度話し合いを行ってから、意見を出すとうい。

(5) 伝え合いの活動

- 話し合い、反省会がチームとしてでき、個人でも学習カードを活用して、振り返りができていた。
- 映像があることで視点が絞られ、動きの分析がしやすく、生徒からも意見が出ていた。
- 考えさせる時間が確保されており、学習のめあてをよく理解させることができていた。
- 班の中で、技術的なことを教え合う姿が見られた。

- 「生徒が、何を伝え合えれば、本時のめあては達成できたのか」を明確にしたほうがよい。
- ゲームを観察する人を置くとよかった。観察者の意見でチームの反省会の話合いも深まったと思う。
- 映像を見ながら、全員が考えられるように、近くの人と話し合わせて発表でもよい。

(6) 生徒の様子

- 意欲的に協力して、チームごとのウォーミングアップや練習、ゲームに取り組んでいた。
- 男女の仲がよく、男子が女子に教えている場面があり、男女共習がよくできていた。
- 教師の発問に対する反応がよく、楽しそうに活動していた。
- 活動と話合いのメリハリがあり、生徒たちがしっかり切り替えて授業に取り組んでいた。
- 本時のめあてに対して、振り返りができている生徒が多かった。
- 活動中、目標を意識しながら取り組んでいるグループが少なかった。
- ゲーム中、手を組んだままの生徒が多く、ボールが高く上がってもアンダーハンドパスで取っていた。
- 自分の動きに集中しすぎて、声かけやコミュニケーションが少なかった。
- 技能の下位生徒にとっては、課題に対する成果を振り返るのが難しそうだった。

(7) 指導計画・指導内容

- 生徒の行動が素早く、規律がしっかりしていた。
- 少人数での活動で、一人一人の運動量が確保されていた。
- 基本技能を習得する時間（基礎ドリル）がしっかり確保されていた。
- ラリーを長く続けるという目標に対して、ワンバウンドのゲームは適していたのか。（落下点が違う、動きが違う等）。
- ゲームの間に、作戦に迫れたかどうか確認する時間があってもよかった。

3 生徒の変容

【知識・技能】

生徒の感想では、「手の三角形がうまくできたからパスがまっすぐ上げられた」「ボールの落下点に入れた」「腕の面が違う方向を向いてしまったからボールが後ろにとんだ」「落下点に素早く入るためにボールの動きを先読みすることが大切だと思った」等の記述があり、技能ポイントを意識したプレーをすることができていた。

単元当初は、円陣パス等でラリーをすることも難しかったが、単元の最後には、6対6の2本目キャッチルールで、三段攻撃をしながらゲームをすることができるようになった。ほとんどの生徒が技能ポイントを意識して2つのパスを使うことができていた。技能の上位生徒は、「どちらのパスを使用すればラリーが続くのか、どのようなパスをしたらアタックを打ちやすいかを考えてパスを使い分けることができていた。技能の下位生徒は、アンダーハンドパスに固執する傾向が見られたが、プレーを人任せにする生徒は単元当初に比べて減り、一人一人がプレーに関わろうとする姿が多く見られた。

【思考・判断・表現】

本授業において、映像資料を見せ作戦ボードを使ったことで、チームでの自己の役割や動き方を客観的に捉えることができていた。また、その後の授業でも、チームの作戦を立てる時やゲーム中に、「パスが横にずれてしまうこともあるから、周り人はそれを意識して」「アタックを打つ人は、セッターがキャッチする前から準備するんだよ」等の発言があり、ゲームのレベルとともに発言の質も上がっていった。技能の下位生徒も、仲間のアドバイスをもとに、ボールや周囲の仲間の動きに合わせて自分の動きを変えることができるようになっていった。生徒の感想からも「チームの役に立てた」「ミスしても仲間が助けてくれた」「仲間の指示通りに動けた」等の感想があり、一人一人がチームプレーの中で、自分の役割を果たすことを考えていたことが伺えた。

【主体的に学習に取り組む態度】

授業前のアンケートでは、体育、バレーボールが嫌いという生徒がおり、その生徒は単元当初ボールから逃げる動きがあった。しかし、単元が進むにつれて、積極的にボールに関わったり笑顔でゲームをしたりと、一生懸命に運動する姿が見られた。また、その生徒の感想からも、「試合の中で空いているスペースを意識できた」「前よりもラリーが続いたのは、素早く動けたからだ」等の記述や発言があった。提示したためあてを意識して粘り強く頑張る姿勢が感じられた。

4 授業後の生徒の感想

反省・感想
ボールを持っていないとき、相手の動きや空いているスペースを見つけてアタックした。

反省・感想 今日はボールの動きを予想して色々な場所に動くことができました。前回よりもラリーが続いてアタックまですることができたので良かったと思います。ポジションを決めたのも良かったと思います。

反省・感想
ボールの落下点に入るのが難しいから落下点の予想をたてたい。

反省・感想
今日チーム全員があいているスペースを意識してできました。しかし、うでをぶってしまった場面もあったのでアドバイスをしなからパスをしました。今回は前回よりもパスが、つながったので良かったです。

反省・感想
たくさん動くことがなるべく自分のコートにボールを落とさないようにするコツだと分かった。

反省・感想
落下点がなんとなくわかった感じがします。こんどはねらったところに返せるようにしたいです。

5 成果と課題

(1) 成果

【知識・技能】

- ・ウォーミングアップにおいて、ピンポン玉を使って2つのパスの基本練習を行ったことで、興味を持って積極的に活動することができた。その結果、ほとんどの生徒が、アンダーハンドパスでは落下点と腕の面、オーバーハンドパスでは落下点と手の三角形を意識することができた。
- ・ゲームの中でも、オーバーハンドパスとアンダーハンドパスを使い分ける生徒が増えていった。

【思考・判断・表現】

- ・チームで意見を交流する場面では、活発なやり取りをする姿が見られ、自己の課題やチームの課題について意見を言ったり、仲間の意見を聞いたりして、チームの目標や作戦を話し合うことができた。
- ・自己の動きやチームの動きと映像資料を比較して、課題を見付けることができていた。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・ほとんどの生徒が、バレーボールをすることに楽しみを感じ、笑顔で活発に動くことができていた。
- ・話合いに積極的に参加し、チームに貢献しようとしていた。

(2) 課題

【知識・技能】

- ・ウォーミングアップで、技能ポイントを押さえた正しいフォームで基本練習ができない生徒が数名見られたので、正しいフォームを習得しやすくする方策を考える必要がある。
- ・構え方を指導したにもかかわらず、オーバーハンドパスとアンダーハンドパスの使い分けが瞬時にできず、ゲーム中に終始手を組み、アンダーハンドパスで構えてしまう生徒がいたので、パスの特性や目的をドリルゲームやタスクゲームでも感じられるような工夫が必要である。

【思考・判断・表現】

- ・映像資料の見せ方では、「ポイントを絞って見せる」「考えてほしいプレーのみ切り取って見せる」「スロー再生して見せる」等の工夫があれば、その後の話合い活動がさらに活発になったと考えられる。
- ・チーム数が多かったため、すべてのチームの話合いに教員が関わりきれず、話合いを深められないチームが出てしまったので、リーダーとなる生徒への指導・支援を充実させることができると良かった。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・チームや個人の課題設定が難しく、課題解決にたどり着かない生徒がいたため、授業後に達成感を感じられない生徒も見られた。めあて達成に向けた、チームや個人の課題を明確に持たせるために、パスなどの技能習得を客観的に判断できるようにしたり、チームプレーのポイントに気付かせたりする手立ての工夫が必要である。また、パス等の技能やチームプレーのポイントについて、生徒が気付き考えた言葉で、模造紙などに書き溜めていくことで、実感を伴った学びを継続していくことにつながると考えられる。